



私事になりますが、私はこれまで陸上競技の顧問として、20年以上の長きにわたり部活動の現場に携わってきました。来る日も来る日もグラウンドで子どもたちと向き合い、共に汗を流し、時には悔し涙を拭い、時には歓喜の声を上げてハイタッチを交わす——。そんな陸上漬けの日々の中で、私の心にずっと残り続け、今でも大切にしている大好きな言葉があります。



来週に運動会を控えた今だからこそ、この言葉を子どもたち、そして保護者の皆様に紹介させてください。それが、私が愛してやまない箱根駅伝の歴史を長年支え続けている飲料メーカーのキャッチフレーズ、「丸くなるな、星になれ。」です。

ゆうべつ学園 校長 豊原 隆之

### Sec 1 箱根路を駆けるランナーたちが見せる「一生懸命」

お正月の箱根路を走るランナーたちは、まさにこの言葉を体現しています。彼らは決して、周囲の目を気にした「無難な走り」をしているわけではありません。自分の可能性を信じ、一步一步をひたむきに、それぞれの目標に向かって全力を尽くしています。あのドラマが私たちの心を激しく揺さぶるのは、選手一人ひとりが「周りと同じ」という枠に収まることなく、自分にしかできない走り、一瞬一瞬を「星」のように輝かせようとしているからではないでしょうか。



学校生活、特に来週に迫った運動会も同じです。リレーでバトンを繋ぐとき、ゴールを目指して全力で駆け抜けるとき、友だちと協力して勝利を目指すとき、子どもたちは誰かの真似ではない、その子だけの一生懸命な姿を見せてくれます。

### Sec 2 「周囲に合わせる」優しさと、自分を大切にできる強さ

もちろん、学校という集団生活のなかで、周囲と歩調を合わせることや、お互いに折り合いをつける「協調性」という優しさはとても大切です。社会を生きていく上で、欠かせない力でもあります。しかし、周囲の目を気にするあまり、自分が本来もっている「豊かな個性や、好きなこと」まで自ら抑え込んでしまい、誰もが同じような形になってしまうのだとしたら、それは少し寂しいことではないでしょうか。

「みんなと違うからやめておこう」「目立つと恥ずかしいから普通にしていよう」と、子どもたちが自分だけの輝きを引っ込めてしまうのは、あまりにももったいないことです。

学校が、そして私たち大人が子どもたちに願うのは、ただ周囲に合わせるだけの大人の姿ではありません。時には少し不器用であっても、自分だけの「好き」や「得意」を大切にしてほしい。箱根の路を懸命に走るランナーのように、あるいは運動会で自分なりのゴールを目指して腕を振る子どもたちのように、自分の持ち味をのびのびと発揮し、夜空にきらめく星のように光を放つ存在になってほしい——。これこそが、「星になれ」という言葉に込められた願いであると、私は26年の教員生活を通して感じています。

### Sec 3 運動会は、誰もが「星」になれる舞台

子どもたちがもつ「自分らしさ」とは、世界にたった一つしかない「星の原石」です。走るのが得意な子、絵を描くのが好きな子、誰にでも優しく声をかけられる子。輝き方は一人ひとり違って当たり前です。

箱根駅伝の選手たちも、最初から華やかに輝いていたわけではありません。地道な練習や、日々の小さな努力を積み重ねてきたからこそ、あの舞台に立つことができます。来週の運動会は、これまでの練習の成果や、子どもたちの成長を披露する舞台です。時には思い通りにいかない悔しさもあるかもしれませんが、学校は「安心して失敗し、学べる場所」です。「結果はどうあれ、一生懸命な君が素晴らしいんだよ」と、いつでも温かく受け止める安心感があるからこそ、子どもたちは自分らしさを恐れずに発揮し、力強く一步を踏み出せるのだと信じています。



### Sec 4 それぞれの輝きを、ともに応援するために

箱根駅伝を走る選手に一人として同じ走りの選手がいないように、満天の星空が美しいのは、すべての星が違う色や大きさで光っているからです。来週の運動会では、子どもたち一人ひとりが主役となり、自分だけの輝きを放ち、お互いの良さを認め合える素晴らしい一日にしたいと考えています。

保護者の皆様、地域の皆様。子どもたちが自分なりの「星」を目指して歩を進めるとき、ご家庭や地域、そして学校がしっかりと手を携え、温かく伴走してあげられたら幸いです。当日は、子どもたち一人ひとりがそれぞれのペースで大輪の光を咲かせられるよう、温かいご声援をよろしくお願いいたします。